

春

vol.9 / 2026.03

ノジマは“いろいろな人”でできている

I am nojima

人生100年時代を体現。
会社の定年制度を変えた、
世界が注目する84歳。



熊谷 恵美子



自分の体重くらいある商品を積んだ約10台のカーゴをひたすら運びます。重すぎるものは他のスタッフが手伝ってもらいますが、大体運んでいます。



雨の日は転倒すると危ないので乗りません。バスより早くお店に向かえるのほぼ毎朝使っています。皆に止められますが…安全運転ですよ！

「お買い上げいただいた商品をカートなどで駐車場までお運びするのも、私の役割。もちろん接客もします。ご年配の方の気持ちは身に染み

「納品された商品を受け取り、お店で出た返品や廃棄品をトラックに渡す。流通担当が私の仕事です。どちらもカーゴに積まれています。みんな忙しいから廃棄品は適当にポンポン入れてしまいがち。『トラックの中で崩れたら事故につながる可能性がある』と思い、運び込む前に崩れにくいよう積み直します。受け取った商品を陳列するときも、他の商品やPOPの状態をチェックし、『こんな商品が出たのね』と情報を頭に入れながら並べていきます」

「細やかな気遣いで店を支える」「店という一家のお母さん」



備品を補充しながらコミュニケーションも。一緒に働くスタッフたちのコンディションも確認。



お客さまにも従業員にも分かりやすい買い場を作るよう出勤時は毎回チェック。

■ノジマの言葉■
『“販売”ではなく“販買”、“売り場”ではなく“買い場”』

ノジマはお客様に“買っていただく”という想いを込めて「販買」「買い場」と言っています。

「わかりますから、『大丈夫、80歳を過ぎた私でも使えますよ』と丁寧に説明します。後日『あれ良かったよ。ありがとう』などとおっしゃっていただけると、とてもうれしいです」

v o i c e s

熊谷さんは、いて欲しい人。店にいないと困る存在です。



イオンモール川口前川店
レジ担当パートナー
中島 優子
(2009年入社)

ノジマの前の家電量販店から、四半世紀に渡って一緒に働いています。私にとって熊谷さんは、職場のお母さん。お姑さんと同じくらいの年で、よくお昼に手料理をいただいています。実際、彼女は店舗を見守る母のような存在で、何がどこにあるかを把握し、足りない物や汚れなどを誰より早く見つけます。レジ袋も、いつの間にか補充してくれるんです。そういう人がいるのといないのでは、店の動きがまったく違います。熊谷さんが一度退職したときはみんな「すぐに呼び戻そう」という話になったし、80歳になったときも真っ先に「辞めないで」と言いました。いないと困る人なんです。

クマガイ・エミコ展



ノジマは人でできています。さまざまな職場で、多種多様な人財が、それぞれの個性と能力を発揮しながら活躍しています。熊谷恵美子さんは、80歳を超えてなお接客の場に立つノジマのレジェンド。その活躍がノジマの「定年後再雇用制度」を変えるきっかけとなり、日本国内はもちろん、世界から注目されるまでになりました。「店になくてはならない人」と評されるその存在感をご紹介します。

1 ~1961年(20歳)



1941年、埼玉県出身。掃除、風呂焚き、水汲みと働きつめの毎日を送る。高校卒業後は洋裁を学び「編み物講師」の資格を取得。現在は、ノジマで新年を迎えるときにお店のスタッフの着付けを担当するなど、過去の経験が今に繋がっていると実感します。

2 1972年(32歳)~



親戚から「結婚しろ」と言われ、32歳で夫に出会い結婚。33歳で長女、35歳で次女を出産。小さい子供がいるなか、働きに出かけるのが難しかったため、自宅訪問で編み機を教えに行く仕事を紹介してもらった。この仕事に就けたのも、過去の経験が助けてくれたから。

3 1985年(44歳)~



夫が転職した仕事を辞め、当時の収入だけでは生活することが難しく、44歳で働きに出ることにしました。求人広告で見つけた埼玉県戸田市にある呉服店に入社。その時に出会った1歳年下の女性店長とはとても馬が合い、閉店するまで一緒に働くことができました。

5 2000年(59歳)~



家電量販店L社に入社。接客かと思いきや募集していたのは修理受付の担当。専門用語が飛び交い、不安でしたが女性の先輩が丁寧に教えてくれました。プライベートでも仲良くいましたが彼女は病気で他界。彼女の教えは今も私を支えており、とても感謝しています。その店が撤退することになり、職を失いそうになった従業員にノジマが声をかけてくれ、私も67歳で入社。ここからノジマ人生が始まります。

4 1987年(46歳)~



女性店長に「2年間辞めなかつたら、車の免許を取らせてあげる」と言われ、続けたところ、会社が全額負担し車の免許を取らせてくれました。本当にびっくり！免許取得後、様々な仕事を任せてもらいました。お客様に「ありがとうございます」と感謝される嬉しさを体感。



出発！シンゴー！はじまり、はじまり！



自分の孫くらいの年齢のスタッフと働いています。いつのまにか「ばあば」という愛称もつきました(笑)。若い仲間たちと話しながら楽しく毎日仕事をしています。

「娘たちが巣立った後、夫が認知症になってしまったのです。きちんと向き合っただけじゃいけません。きちんと向かっても辛く、やりきれない毎日でした。そんなときにかかりつけの先生が、『介護だけしていたらあなたが疲れ切ってしまう。仕事は続けたほうがいい』と言ってくれました。結局、介護は7年続き、最後は施設で亡くなりました。あの苦しい日々を乗り越えられたのも、職場という居場所があり、明るい仲間が支えてくれたおかげです」

熊谷さんには、働き続けたい理由があった。

「娘たちが巣立った後、夫が認知症になってしまったのです。きちんと向き合っただけじゃいけません。きちんと向かっても辛く、やりきれない毎日でした。そんなときにかかりつけの先生が、『介護だけしていたらあなたが疲れ切ってしまう。仕事は続けたほうがいい』と言ってくれました。結局、介護は7年続き、最後は施設で亡くなりました。あの苦しい日々を乗り越えられたのも、職場という居場所があり、明るい仲間が支えてくれたおかげです」

「それはもう大変でした。年下の女性上司の親身な指導でなんとか乗り切れましたが、修理窓口なんて苦情担当のようなものですから、お客様にはずいぶん怒られたものです。『おなごにパソコンなんて預けられるか!』と怒鳴られたことが得意なんです。パソコンのことで私を怒鳴った男性は、今ではすっかりお得意様で、『あんだ、まだ辞めないのか(笑)』なんて言いながら、よくお買い上げいただくんですよ」

9年ほどしてその店が撤退するのに伴い退職予定となった従業員をノジマが採用。当時70歳目前の熊谷さんにも声がかかった。



コロナ前までは、自分が作ったきゅうりのお漬物や煮物などお店にもっていき、お昼にみんなで食べていました。結構、好評でしたよ(笑)。

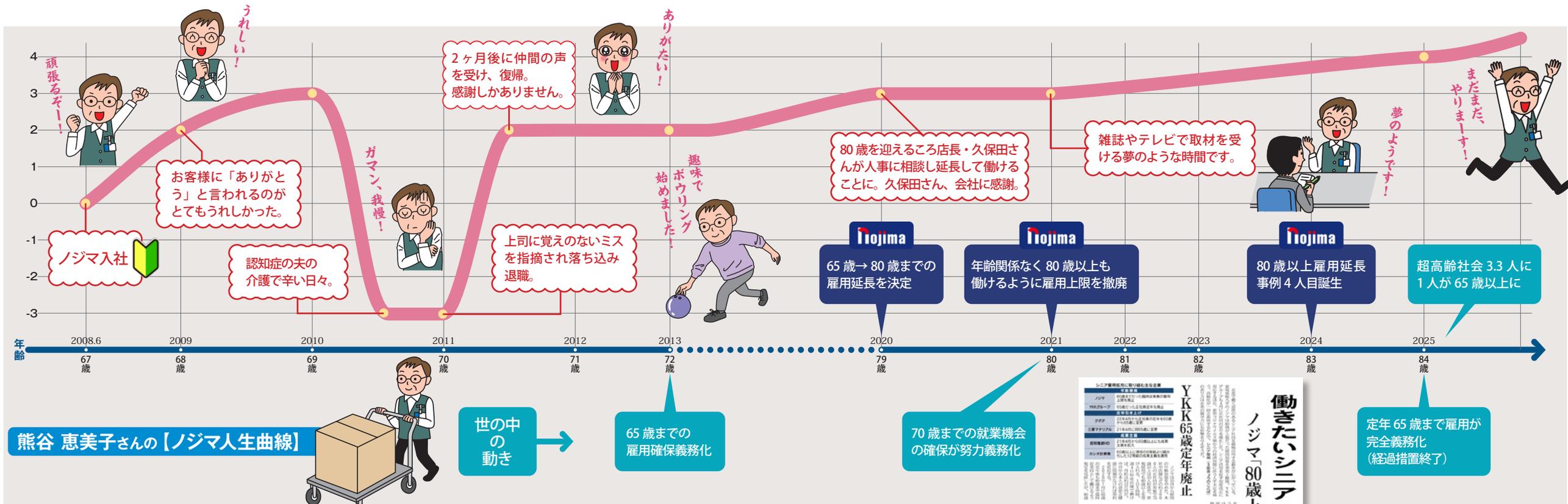
59歳、まったくの未経験で
家電の世界に飛び込む

そもそも熊谷さんが家電販売の仕事に就いたのは59歳のとき。多くの企業が「60歳定年」だった当時、かなり思い切った挑戦であった。

「それまで十数年間、呉服店で営業や接客をしていましたが、バブル崩壊後の不況で閉店。間もなく自宅近くに大きなショッピングモールが完成して、家電量販店がパートの募集をしていました。電気製品なんて普通に使うだけの知識しかありませんでしたが、娘たちを大学へ行かせたかったので、『なんとかなるさ』と思っただけで応募しました」

配属されたのは、修理の受付窓口。あらゆる種類の製品が持ち込まれ、広範な知識が要求される職場だった。

「それはもう大変でした。年下の女性上司の親身な指導でなんとか乗り切れましたが、修理窓口なんて苦情担当のようなものですから、お客様にはずいぶん怒られたものです。『おなごにパソコンなんて預けられるか!』と怒鳴られたことが得意なんです。パソコンのことで私を怒鳴った男性は、今ではすっかりお得意様で、『あんだ、まだ辞めないのか(笑)』なんて言いながら、よくお買い上げいただくんですよ」



2021年10月14日
日本経済新聞朝刊1面

『81歳の家電売り場店員。接客は天職です』
2023年3月発行（発行／株式会社 KADOKAWA）



熊谷さんは、80歳を超えての雇用延長第一号となった。言うなれば、熊谷さんの存在が会社の制度を変えたのだ。

「新聞や雑誌から取材を受けて、海外からも取材が来たり、ついに本まで出すことになって、なんだか自分の人生じゃないみたい、夢のようでした。私は8歳で呉服屋の親戚の家に預けられ、毎日『役立たず』と怒られて、早く自立したい、役に立ちたいと願って生きてきました。結婚してからも乳飲み子を抱えて内職したりと苦労の連続。それでも人生の節目ごとに良い人と出会い、助けられて来ました。今の私があるのは、そんな皆さんのおかげです」

2025年10月で84歳、
これからも前向きに生きる

幼いころから様々な経験をして苦勞を乗り越えてきた熊谷さん。若い後輩たちには、「たくさ



ギフトシーズンは来店されるほとんどのお客様がプレゼント用でお求めになるので、スタッフに包装を頼られます。お渡しするお客様が笑顔でお帰りになるのを見るところまで笑顔になります。

2カ月間のプチ退職。
仲間に請われてすぐに復帰

「私の別名はタエ・シノブ」と冗談で言うほどに辛抱強い熊谷さんだが、実はどうしても耐えられず、会社から去ったことがある。

「もう昔話ですけどね。レジを担当していた頃、同じお店の上司に、いわれのない間違いを指摘されました。ミスをした覚えはありませんでしたが、『原因はあなたにある』と決めつけられ、『絶対に間違いを起こさないためには、私がいなくなるしかありませんね!』と言いつ返ししてしまいました。夫の介護で疲れ切っていたけれど、仕事は丁寧に行うと頑張っていたからこそ、我慢できなかったのです」

しかし職場の仲間たちにとって、熊谷さんのいない店舗はありえなかったようだ。

「ふた月もしないうちに、元同僚から『プレゼント用の包装だけでも手伝ってくれない?』と連絡が来たのです。誕生日やクリスマス、忘年会の景品など、家電も包装する機会も多く、子どもの頃から手仕事をしてきた私の得意技でした。そんなきっかけもあり、店の多くの仲間の声を受けて職場に戻りました。今となっては

いいと社長も言っているし、続けたら?』というのです。ホントかしら?』と思ったら、本当でした(笑)」

私を必要として戻してくれた店舗の皆さんにはとても感謝しています」

年齢よりもやる気が大事!
会社が定年の延長を決定

復帰から約10年。熊谷さんは80歳になろうとしていた。当時、ノジマの正社員の定年は65歳、再雇用の年齢上限は80歳だった。

「当時の店長、久保田幹雄さんが『熊谷さん、どうする?』とたずねてきました。『80歳です、さすがにおしまいですよね?』と聞き返すと、『やりたい気持ちがある人はいつまで働いても

voices

10代から80代までいる
人財の多彩さが当社の強み



ミツテン府中店 店長
久保田 幹雄
(2008年入社)

私が川口前川店に店長として赴任したとき、熊谷さんはすでに70代後半。私の両親より年上でしたので、正直「この歳で大丈夫かな?」と思いました。けれどすぐに、この店になくてはならない人だと実感しました。店舗全体への目配り・気配りがずば抜けているのです。ですから彼女が80歳になると、「高齢だけ働き続けてほしい人がある」と本社に直談判して、継続雇用が決まりました。会社に貢献してくれる人財を、年齢だけを理由に失うのはもったいないですからね。10代の学生から80代まで、いろいろな人がいて、それぞれができることをやる。それがノジマの強さだと思います。



2022年 中学校の同窓会「80歳のお祝いで茨城県五浦海岸に行きました。どこにいても見守ってくれている仲間がいると思うと幸せです」



75歳で始めた趣味のボウリング「健康維持にもなり、同年代の仲間ができました。何かあった時に助けてくれる仲間は天からのプレゼント。まだまだ続けます!」

んの人と接し、話して、正しく前を向いて進んでほしい」と言いたいそうだった。

「人生は長いのです。失敗も、甘い誘いもあると思います。若い人には、それに負けないでほしい。正しく生きていけば、きっと良いことがありますよ。私も前を向いて、人生100年を生き抜きたいと思います」

熊谷さんのことだ、何歳になっても笑顔で新しいことに挑んでいくのだろう。そんな「人生のお手本」が身近に存在するのも、ノジマという会社の価値なのだ。

We are nojima

活躍に年齢は関係ない

シニアの経験は会社の宝だ
いつまでも働ける組織へ

ノジマには現在、65歳以上の従業員が97名、そのうち80歳を超えて働き続けている方が4名います。

年功序列の人事が長く続いた日本においては、2013年の高齢者雇用安定法改正により、希望する従業員全員を65歳まで雇用することが義務化され、2025年には経過措置が終了、完全義務化となりました。

そのような中でノジマは、2020年7月より世の中に先駆けて65歳定年を80歳まで延長しました。その後、80歳を超えた熊谷恵美子さんから「期限を超えても働き続けたい」という要望があり、雇用を継続することになりました。これにより、実質的にノジマの雇用上限が撤廃されたことになりました。

このようにノジマでは、年齢や性別、学歴や国籍などに関係なく、「意欲のある従業員が生きて働ける企業でありたい」という思いのもと、熊谷さんのように声を上

65歳以上でノジマに挑戦!

田中 哲男 さん (67歳)



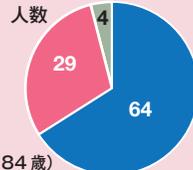
相模原本店
季節 AV 部門
スタッフ
2023年 65歳で
入社(週5日勤務)

65歳までは自動車の営業を担当。その会社の再雇用年齢の上限が65歳だったため次に何をするか仕事選びに迷っていた時、テレビで紹介されたノジマのシニアの話を書き聞きました。まだ働ける場所があると知り、チャレンジで電話をしたのがきっかけです。ノジマでは本人の要望に応じてそれぞれ働き方を相談できるのがあると感じています。今は、「てっちゃん来たよ!」と、ご来店されるリピーターのお客も増えてきて非常にやりがいを感じています。年齢関係なく働けるノジマで、体が動く限り働きたいと思います。



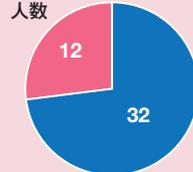
65歳以上 従業員
97名
(2025年12月末時点)

■ 65歳～69歳
■ 70歳～79歳
■ 80歳～(最高年齢84歳)



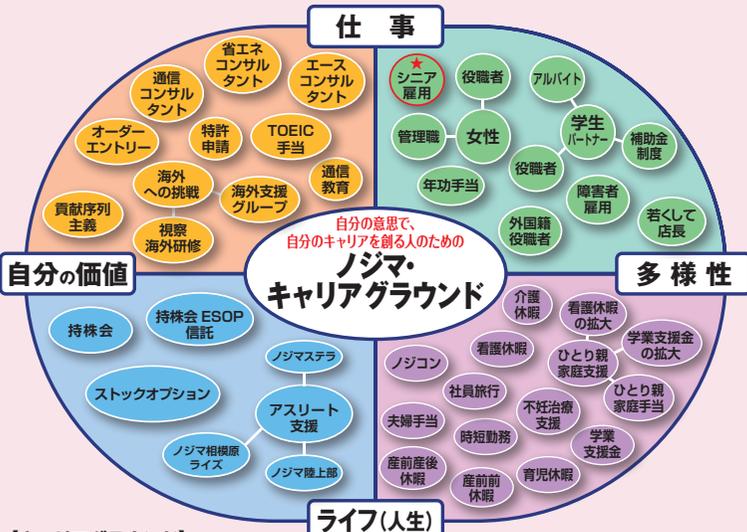
入社時年齢 65歳以上
44名
(2025年12月末時点)

■ 65歳～69歳
■ 70歳～(76歳)



年齢関係なく新しいチャレンジができるノジマ

げてくれた従業員の意見も取り入れながら、社内制度も柔軟に変化させています。そして、年齢にとらわれず生き生きと働く熊谷さんの姿は、今や日本の働き方改革の代表事例として世界でも注目されています。当然、仕事内容や1時間あたりの報酬金額についても、雇用形態による区別はありません。全ての従業員がそれぞれの立場で全力を出し切り、活躍できる舞台がノジマにはあります。



【キャリアグラウンド】

向上心ある*人財が、“全員経営者”として最大限力を発揮できる場。それがノジマ・キャリアグラウンドです。
* 向上心を持ってノジマで働くすべての人は財産であり、宝物だという考えから「人財」と表現しています。



「I am nojima」
バックナンバー



「I am nojima」
ご感想フォーム

投稿
カンタン
30秒!

2026年3月1日発行

発行元 / 株式会社ノジマ 〒108-0075 東京都港区港南 2-15-3 品川インターシティ(C棟)

編集 / 株式会社ノジマ 総務部 総務グループ 広報担当

公式ホームページ / <https://www.nojima.co.jp>



Nojima